

五

月の終わり頃からにわかに依頼が入り始めた。それまできつぱり仕事がなかったので、就労しました、とも言えないでいたのが、ようやくちょこっと就労の名に恥じない勤務状況になってきた。そのほとんどが個人宅の草取りである。梅雨を機にきれいにしておきたいと思うのは誰も同じで、この時期に集中するのもやむなしだ。

学校に草取りは付きもので、これまで毎日の掃除、奉仕作業など様々な場や形でやってきた。とある学校では必要に迫られて草刈り機の購入に至る。どこで買ってよいかもわからなかったで、地元の職員に勧められて森林組合で求める。知らないというのは滑稽なもので、値段も用途もまるで知識を持たないで購入したために、ぼくにとつては明らかにオーバースペックであったことが後に分かった。そもそも森林組合で扱っているのだから、山林作業用のパワフルなものであるのは少し考えればわかることなのだが、すべて後の祭り。家周りの草を刈ると、もつと軽量簡便安価なもので十分だったのだが、まるで山刀で駄菓子の袋を切っているような釣り合いの取れぬことになってしまった。まあ草刈り機に造詣の深い人などそう思うものではないので気になどしないが、ごくまれにからかつてくる不届き者がおり、そういうときはどう切

り返したのか知恵を絞らねばならない。草刈り機にとつては実力を十全に発揮する機会もなく、準備運動ばかりさせられているようなものだが、そのせいもあってかこの十年故障や不具合など一切ない。

松江に来てからは、農家でもなければ草刈り機を使うこともないので出番など皆無だったが、今回の就労を機に再び使い始めた。ぼくよりも草刈り機に需要があるのだ。それはそれで喜ばしい。

草取りの依頼者は、その多くが独居老人である。昭和三十年代から五十年代に家を建てた勤め人の家。つまりぼくの実家と同じ。

「何年か前まで、自分でやつちようしましたがねえ。もうこのごろはいけませんわ。」

「お父さんが生きちようときはきれいにしちよつたに私はわからんだけん。」

草も木も寿命は人とは比較にならない。草木が旺盛に育つようになったころ、人はすでに年老いている。家を継ぐ人がいなければ、いずれ草木が手に負えなくなることを我々の親世代は想像できなかったのだなあと思う。あのころ想像もできなかった世の中へと変化しているということなのかもしれないが、いっしょに草取りをした同僚が言う。

「庭なんて持つもんじゃありませんね。」

專業ババ奮闘記 (その2) 105

木幡智恵美

二人暮らし (2)

「福井に行ってる間、親父でもお袋でもいいから、ポルティに乗ってね」と息子に頼まれていた。ポルティというのは、息子のバイクだ。何とかお金が貯まったと言つて、中型バイクの免許を取り、中古で買った二百五十cc。夏場の水やりに一日おきで出雲まで往復するほど、百十ccのスーパーカブには乗り慣れてるが、久々の二百五十ccには抵抗があった。またがってみると、やはり大きい。恐る恐るエンジンをかける。クラッチが蹴り上げ式なのを思い出しながら少し走るが、曲がる時や信号で停まる時はドキドキする。最初はガソリンスタンドまで走って給油して帰り、次の週は広瀬まで足を延ばした。そして、三回目、宍道湖一周する頃には、かつての勘が戻り、爽快に走っていた。

息子が福井に行つてから二週間ちよつと、誕生日に「おめでとう」のメールを送ると、「夫婦仲良くね」との返信。義母の介護の真つ最中の頃は、結構家族の間でギスギス感があり、息子なりにあれこれ気を揉んでいたのだ。だから、少しでもどちらかの語気が強くなると、「喧嘩すんなよ」と言う癖がついてしまっていた。一日の多くの時間を点訳や孫たちの服作りに当て、夫とは口論するネタもない。

週末、娘や孫たちを迎える日は、朝から大忙しだ。買い出しに行き、昼食の準備をする。この日のメニューは、三人とも大好きなハンバーグだ。材料をこねて焼くだけにしておき、添えるスパゲティを茹で、キャベツを千切りにする。前日に作つておいたクレープ生地は、バナナと泡立てた生クリームを入れて包んでいく。冷蔵庫には、採ったばかりのジャガイモで作ったポテトサラダが入っている。準備が整い、皆が来るまで点訳をしていると、「おはよう」の元気な声が聞こえ、玄関に出る。実歩と寛大がここにこ顔で靴を脱ぎ、その後ろから宗矢が娘に手を引かれて歩いてくる。

昼食後、宗矢が寝た後は、寛大は私とお店屋さんごっこ、実歩は娘とジジと三人でトランプやウノで遊ぶ。宗矢が起きてからは、私がついて回つた。歩くようになると、じつとしていない。言葉はまだあまり発しないが、言うことはだいたい分かっているようだ。息子がこれくらいの時そうだったように、相手の口元をじつと見つめている。

30代フリーター やあ、ジイさん。参院選では自民党が選挙後に憲法改正原案を国会に提出する構えを見せるなど改憲に前のめりになっている。年金生活者 有権者の関心は物価高対策に集中し、改憲の議論は政党とマスメディアだけが盛り上がりつつ終わるだろう。

公示前日に開かれた党首討論会を報じる朝日新聞は「物価高・憲法 9 党首討論」の見出しを掲げた。物価高対策に多くの時間が割かれたと伝える一方で、岸田文雄が改憲の原案を発議可能な3分の2の勢力で参院選後に一致させたい考えを表明したと報じた。

そこだけ見ると、改憲が物価高に次ぐ有権者の関心事のように錯覚しそうになるが、これまでの世論調査では改憲は有権者にとって優先順位が低く、議論に熱心なのは政党とマスメディアだけというのが実態だ。まして今回は長いこと経験したことのない急激な物価高が襲った。「憲法よりそつちをなんとかしてくれ」と言うのが国民の本

参院選での与党の勝利は国民が9条改正や防衛費の増を許したことを必ずしも意味しない。

30代 高い支持率を維持する岸田政権の与党と、バラバラ感のある野党が争う参院選をめぐって、河野有理という政治学者が次のようなことを言っている。「日本維新の会や国民民主党のような、与党の政策に一部賛同するような政党をどう理解すればよいのでしょうか。政策課題ごとに部分連合、パースナル連合といった政党間の連携が具体化するかもしれません」（6月23日朝日新聞朝刊）。

年金 政党というものの地位が低下していることをうかがわせる指摘だ。党派の違いを物差しにした政治が後退する兆しかもしれない。

30代 それにしては、参院選で自民党は安定した戦いぶりを見せている。年金 自民党のいまの勢いはみかけほどではなく、政党全体の地位低下は自民党も含めて進んでいる。そのため有権者は政治全体の実行力に不安を覚

音だろう。

30代 では、なぜ政党とマスメディアは改憲議論で盛り上がりつついるんだ。

年金 両者とも権力を持つ主体だからだ。政党は国家権力の一部を担っているし、マスメディアは第4の権力として国家権力とつながっている。憲法は国家権力を縛るものだという立憲主義の前提に立てば、政党もマスメディアも縛られる側だ。おのずと緩めるほうへ傾くのは避けがたい。改憲に批判的な政党もマスメディアもあるが、他方で賛成する政党、マスメディアがあれば、必然的に議論は盛り上がる。

30代 自民党はロシアのウクライナ侵略がもたらした国民の危機感を奇貨として防衛力増強と憲法改正を併せて進めようともくろみ、政調会長の高市早苗は今年度当初予算の2倍の防衛費を主張している。それにこんなツッコミが入っていた。「若年人口が激減しているすでに半減、20年後にはさらに半減するのに、防衛費倍増して誰が戦車や戦艦や軍艦に乗るのか」（永江一

え、どこかに力を集めたほうがいいと考えて与党に過半数を与え続けているように思える。

政党の地位低下は私が言い続けている国家からの権力の分散によるものだ。資本主義の高度化は国家の権力の一部を、個人、企業（市場）、国家間システムに分散させた。消費の過剰化

石「ウクライナ問題で日本の防衛力強化を語る無意味さ」、アゴラ、6月22日）

年金 倍増された防衛費でまかなわれた軍備は、それを動かす人手が少子化で追いつかず、「張り子の虎」になる恐れがあるという警告だ。もしその通りになれば安全保障上のリスクはいまより増すだろう。軍備を大幅に増強し、9条に自衛隊を明記すれば、露骨なけんか腰と中国は受け取るに違いない。自らもファイティングポーズをとらざるを得ない。しかも、「張り子の虎」とわかつているから、戦えば勝てる確率が高いとみて、状況によっては攻撃に踏み切る可能性が生まれる。

与党はこの参院選で改選過半数に達する勢いと報じられている（6月24日朝日新聞朝刊）。与党なら物価対策をうまくやるだろうと国民が思っているからではない。うまくやれない度合いが野党よりもまだ少ないと見ているからだ。まして憲法を変えてほしくて自民党に投票する国民は少ないだろう。

が個人への、産業のソフト化が企業（市場）への、資本のグローバル化が国連やEUといった国家間システムへの分散を駆動した。国家権力の一部をなす政党も、官僚組織などともに地位低下を免れない。

政党の場合それは党派的な考え方の後退となつてあらわれる。従来だと対立する政党の言うこと、あるいは嫌いな政党の言うことなら、妥当なことであつても反対するのが当然視されてきた。坊主憎けりや袈裟まで憎いのが党派的な考え方だ。

それがいま弱まり始めた。その変化はまず野党にあらわれている。野党は自民党に比べると党派的な思考、党派性の論理に傾きやすい。与党を倒すことを使命としているので、与党の言うこと、することにことごとく反対する方向へ行きがちになるからだ。だから、党派性が弱まる時、その変化も顕著に出てくる。維新の会や国民民主の是々非々の態度への傾斜はその代表例だ。

ニュース日記 837  
中村 礼治

## 参院選があぶり出すもの